

第 4 問

【解答】

	工 場 の 仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	材 料	900,000	本 社	900,000
(2)	賃 金 ・ 給 料	2,000,000	本 社	2,000,000
(3)	製 造 間 接 費	120,000	本 社	120,000
(4)	製 造 間 接 費	300,000	本 社	300,000
(5)	本 社	8,000,000	製 品	8,000,000

	本 社 の 仕 訳			
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
(1)	工 場	900,000	買 掛 金	900,000
(2)	工 場	2,000,000	現 金	2,000,000
(3)	工 場	120,000	当 座 預 金	120,000
(4)	工 場	300,000	機 械 減 価 償 却 累 計 額	300,000
(5)	売 上 原 価	8,000,000	工 場	8,000,000

【解説】

- (1) 材料を掛けて購入した場合、仕訳は「(借) 材 料 900,000 (貸) 買掛金 900,000」となる。材料勘定は工場に設定されているが、支払い関係 (買掛金) は本社で行っているため、この取引は、工場と本社の両方で記帳をすることになる。このように工場と本社の両方で記帳する取引では、工場に本社勘定、本社の工場勘定を設けることにより、次のように仕訳する。(2) 以降も同様である。

工 場：(借) 材 料 900,000 (貸) 本 社 900,000

本 社：(借) 工 場 900,000 (貸) 買 掛 金 900,000

- (2) 賃金を支払った場合、仕訳は「(借) 賃金・給料 2,000,000 (貸) 現 金 2,000,000」となる。なお、支払いの取引であり、消費の取引ではないので、仕掛品勘定や製造間接費勘定は用いない。

工 場：(借) 賃 金 ・ 給 料 2,000,000 (貸) 本 社 2,000,000

本 社：(借) 工 場 2,000,000 (貸) 現 金 2,000,000

- (3) 間接経費の支払い（消費）に関する取引であるが、経費勘定や経費の諸勘定が設けられていないため、仕訳は、製造間接費勘定を用い、「(借) 製造間接費 120,000 (貸) 当座預金 120,000」となる。

工場：(借) 製造間接費 120,000 (貸) 本 社 120,000

本社：(借) 工 場 120,000 (貸) 当 座 預 金 120,000

- (4) 減価償却費の計上に関する取引であるが、(3)同様、経費勘定や経費の諸勘定が設けられていないため、仕訳は、「(借) 製造間接費 300,000 (貸) 機械減価償却累計額 300,000」となる。

工場：(借) 製造間接費 300,000 (貸) 本 社 300,000

本社：(借) 工 場 300,000 (貸) 機械減価償却累計額 300,000

- (5) 製品の販売に関する取引であるが、販売価格が示されていないので、製造原価を製品勘定から売上原価勘定に振り替える仕訳のみ行う。その仕訳は、「(借) 売上原価 8,000,000 (貸) 製 品 8,000,000」となる。

工場：(借) 本 社 8,000,000 (貸) 製 品 8,000,000

本社：(借) 売 上 原 価 8,000,000 (貸) 工 場 8,000,000

全体として、日商簿記ゼミ 2 級工業簿記 教本 pp.240-245 参照

(3)と(4)については、日商簿記ゼミ 2 級工業簿記 教本 pp.69-71 参照

第 5 問

組別総合原価計算表

(単位：円)

	A 製品		B 製品	
	直接材料費	加工費	直接材料費	加工費
月初仕掛品原価	—	—	—	—
当月製造費用	1,404,000	780,000	1,085,000	532,800
合計	1,404,000	780,000	1,085,000	532,800
月末仕掛品原価	—	—	70,000	10,800
完成品総合原価	1,404,000	780,000	1,015,000	522,000

月次損益計算書 (一部)

(単位：円)

売上高	(10,400,000)
売上原価	
月初製品棚卸高	(332,000)
当月製品製造原価	(3,721,000)
小計	(4,053,000)
月末製品棚卸高	(285,000)
売上総利益	(6,632,000)

【解説】

1. 当月の加工費（組間接費）の配賦計算

各製品の完成品総合原価を計算するためには、まず加工費を各製品に配賦する必要がある。加工費は、機械稼働時間を基準に次のように配賦する。

$$\text{加工費実際配賦率} = \frac{1,312,800 \text{ 円}}{16,250 \text{ 時間} + 11,100 \text{ 時間}} = 48 \text{ 円/時間}$$

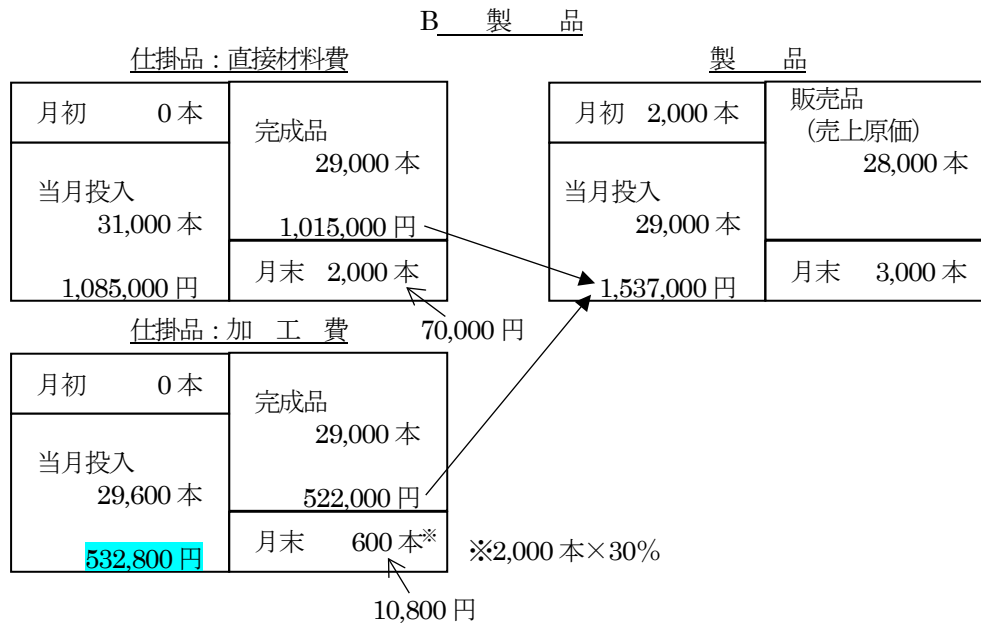
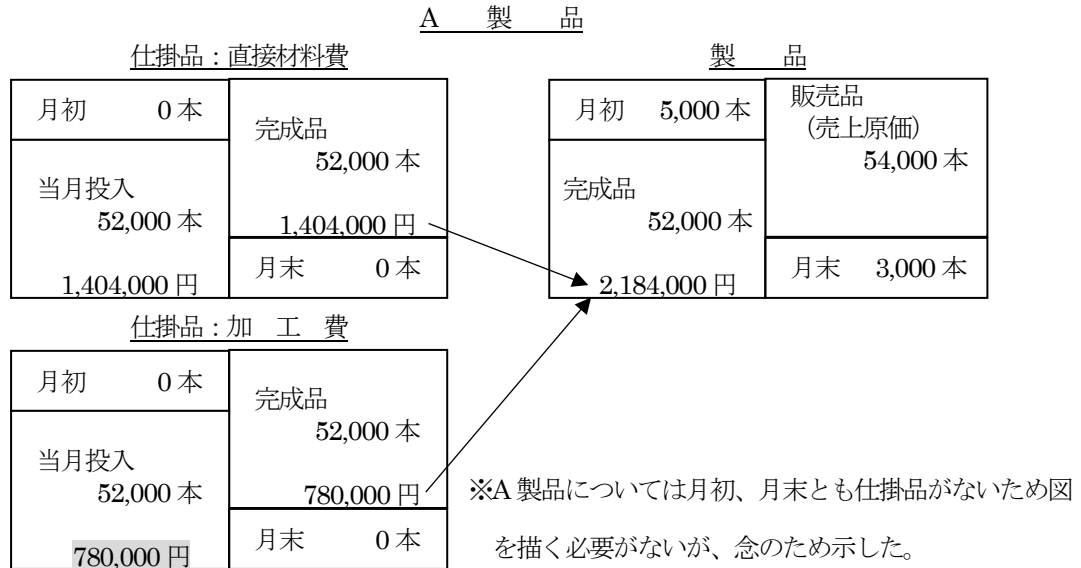
$$\text{A 製品への配賦額} : 16,250 \text{ 時間} \times 48 \text{ 円/時間} = 780,000 \text{ 円}$$

$$\text{B 製品への配賦額} : 11,100 \text{ 時間} \times 48 \text{ 円/時間} = 532,800 \text{ 円}$$

日商簿記ゼミ 2 級工業簿記 教本 pp.142-147 参照

2. 各製品の完成品総合原価の計算

各製品の完成品総合原価（および売上原価）を計算するために [資料] 1 と 2 から仕掛品（勘定）および製品（勘定）の数量関係を示すと次のとおりである。（総合原価計算では数量関係を図の形で示すと分かりやすい。）



①A 製品の完成品総合原価の計算

A 製品は、月初と月末とも仕掛品がないため、当月製造費用がそのまま完成品原価となる。

A 製品完成品総合原価：1,404,000 円(直接材料費)+780,000 円(加工費の配賦分)=2,184,000 円

②B 製品の完成品総合原価の計算

B 製品は、月末仕掛品があるため、月末仕掛品原価と完成品総合原価は次のように計算する。

- ・月末仕掛品原価の計算

$$\text{直接材料費の月末仕掛品原価} : \frac{1,085,000 \text{ 円}}{31,000 \text{ 本}} \times 2,000 \text{ 本} = 70,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費の月末仕掛品原価} : \frac{532,800 \text{ 円}}{29,600 \text{ 本}} \times 600 \text{ 本} = 10,800 \text{ 円}$$

- ・完成品総合原価の計算

$$\text{完成品総合原価} = (\text{月初仕掛品原価} + \text{当月製造費用}) - \text{月末仕掛品原価}$$

$$\text{直接材料費の完成品総合原価} : (0 \text{ 円} + 1,85,000 \text{ 円}) - 70,000 \text{ 円} = 1,015,000 \text{ 円}$$

$$\text{加工費の完成品総合原価} : (0 \text{ 円} + 532,800 \text{ 円}) - 10,800 \text{ 円} = \underline{522,000 \text{ 円}}$$

$$\text{合 計} \quad \underline{1,537,000 \text{ 円}}$$

日商簿記ゼミ 2 級工業簿記 教本 pp.142-147 参照

3. 月次損益計算書の作成

①売上高の計算

売上高は各製品の販売数量に販売単価を掛けて計算する。

$$\text{売上高} : 54,000 \text{ 本} \times 120 \text{ 円} + 28,000 \text{ 本} \times 140 \text{ 円} = 10,400,000 \text{ 円}$$

②売上原価の計算

売上原価は、月初製品棚卸高と当月製品製造原価の合計から月末製品棚卸高を差し引いて求める。

- ・月初製品棚卸高の金額

$$[\text{資料}]3 \text{ の金額} : 220,000 \text{ 円} + 112,000 \text{ 円} = 332,000 \text{ 円}$$

- ・当月製品製造原価の金額

$$\text{A 製品と B 製品の完成品総合原価の合計} : 2,184,000 \text{ 円} + 1,537,000 \text{ 円} = 3,721,000 \text{ 円}$$

- ・月末製品棚卸高の計算

先入先出法により、次のように計算する。

$$\text{A 製品の月末製品棚卸高} : \frac{2,184,000 \text{ 円}}{52,000 \text{ 本}} \times 3,000 \text{ 本} = 126,000 \text{ 円}$$

$$\text{B 製品の月末製品棚卸高} : \frac{1,537,000 \text{ 円}}{29,000 \text{ 本}} \times 3,000 \text{ 本} = \underline{159,000 \text{ 円}}$$

$$\text{合 計} \quad \underline{285,000 \text{ 円}}$$

- ・売上原価の計算

$$\text{売上原価} : (332,000 \text{ 円} + 3,721,000 \text{ 円}) - 285,000 \text{ 円} = 3,768,000 \text{ 円}$$

③売上総利益の計算

$$\text{売上総利益} : 10,400,000 \text{ 円} - 3,768,000 \text{ 円} = 6,632,000 \text{ 円}$$

日商簿記ゼミ 2 級工業簿記 教本 pp.190-193 参照